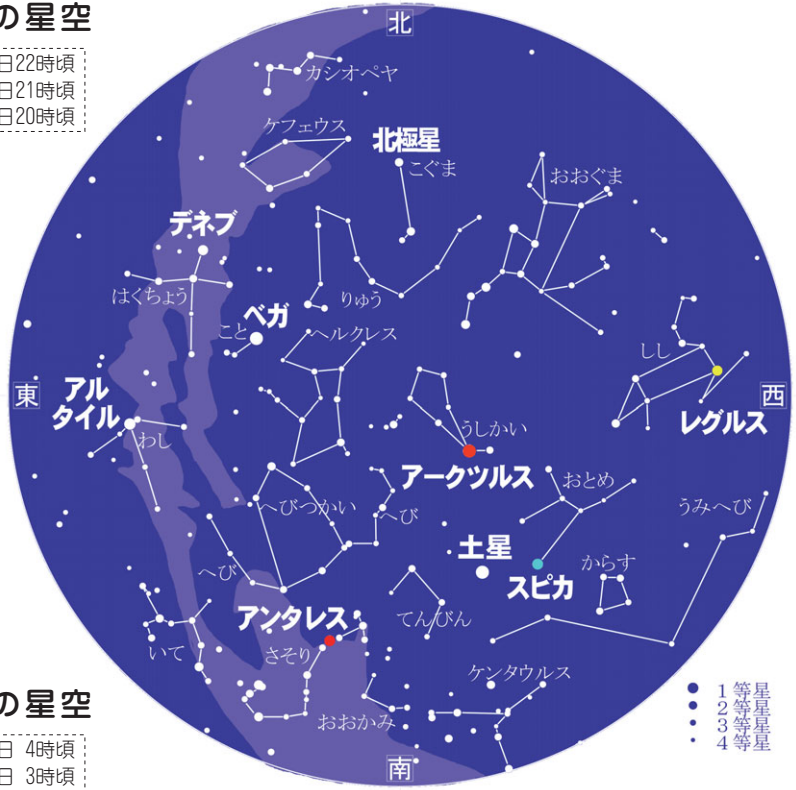




★星空ガイド 6月16日～7月15日

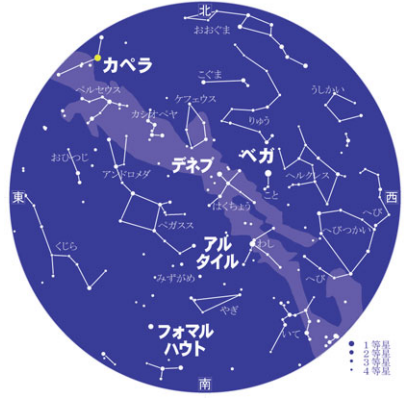
よいの星空

6月16日 22時頃
7月 1日 21時頃
15日 20時頃



あけの星空

6月16日 4時頃
7月 1日 3時頃
15日 2時頃



[太陽と月の出入り(大阪)]

月	日	曜	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
6	16	日	4:44	19:13	11:27	23:44	7.5
	21	金	4:45	19:14	16:46	2:22	12.5
	26	水	4:46	19:15	21:25	7:44	17.5
7	1	月	4:48	19:15	—:—	13:00	22.5
	6	土	4:50	19:14	3:06	17:28	27.5
	11	木	4:53	19:13	7:28	20:43	2.8
	15	月	4:55	19:11	11:18	22:54	6.8

※惑星は2013年7月1日の位置です。

<くじら座ミラが極大>

7月8日頃、くじら座のミラが極大、つまり一番明るくなります。

ミラは、くじら座の心臓のあたりで輝いている星ですが、約332日の周期で明るくなったり、暗くなったり、明るさが変化する不思議な星です。ミラというのは、ラテン語の「不思議なもの」という言葉が語源になっています。明るいときは3~4等級程度になり、肉眼でも見ることができます。場合によっては2等級程度になることもあり、大阪市内で見えることもあります。逆に暗いときは10等級程度と、明るいときと比べて1500分の1くらいまで暗くなってしまいます。このように明るさが変わる星のことを、変光星といいます。



くじら座とミラ

ミラは脈動変光星と呼ばれるタイプの星で、星全体が膨らんだり縮んだりという変化をしています。これは、この星が進化の最終段階にあり、星全体が不安定になっているために起きる現象です。星の大きさの変化に合わせて、明るさも変化するのです。

約332日という周期は、1年より1ヶ月ほど短い期間です。つまり一番明るくなる時期は、毎年1ヶ月ずつぐらいい早くなります。ところで、くじら座というのは秋の星座です。そのため7月ではまだ朝の3時ごろ、東の空低くにしが見えません。来年以降はさらに極大の時期が早まるため、その時期にはちょうど太陽と同じ方向に来てしまいます。これから数年の間は、明るくなったミラの姿を見ることはできなくなってしまいます。

[こよみと天文現象]

月	日	曜	主な天文現象など
6	17	月	●上弦(2時)
	19	水	月と土星がならぶ
	20	木	木星が合/水星と金星が接近 月と土星がならぶ
	21	金	夏至 さそり座β星(2.6等)の接食(23:07)
	23	日	○満月(21時) 月が今年最近(356991km)
	30	日	●下弦(14時)

月	日	曜	主な天文現象など
7	2	火	半夏生/冥王星が衝
	4	木	金星とプレセペ星団が接近
	5	金	地球が遠日点通過 (1.52097426億km)
	7	日	七夕/小暑/月と木星がならぶ 月が今年最遠(406489km)
	8	月	●新月(16時)/くじら座ミラ(2~10.1等)が極大の頃
9	火	水星が内合	
15	月	海の日	

江越 航(科学館学芸員)